

単元名 声のひびき合い

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 曲想と声の重なる響きなど音楽の構造との関わりや、曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、各声部の歌声や伴奏、全体の響きを聴いて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けることができる。
- (2) 声の重なる響きや、旋律の特徴、旋律どうしの関わりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、それぞれの形態の合唱の響きや演奏のよさを見いだして聴いたり、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもったりすることができる。
- (3) いろいろな形態の合唱を聴くことや、自分たちの表現の工夫に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

05070104_001

【教材名】いろいろな合唱（鑑賞） ハロー シャイニング ブルー（歌唱）

(P. 18～P. 23)

【準備等】鑑賞CD、鑑賞用ワークシート、範唱CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 声の種類を知り、様々な形態による合唱の響きの特徴を感じ取って聴く。</p> <p>★合唱のひびきを聴き比べよう</p> <p>○学習課題をつかみ、声の種類や合唱形態を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノ、アルト、テノール、バスなど声の種類やその特徴を知る。 ・女声、男声、混声、児童など合唱の形態について理解する。 <p>○男声合唱、女声合唱の響きを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「花」から女声合唱による軽やかな響きを味わう。 ・「箱根八里」から男声合唱の力強い響きを味わう。 <p>○混声合唱と児童合唱を聴き比べて、それぞれの音色を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「唱歌の四季」から数曲を鑑賞する。 ・それぞれの豊かな響きを味わい、気付いたことなどを発表し合う。 <p>3～6 歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫して、「ハロー シャイニング ブルー」を合唱する。</p> <p>★表現をくふうして、きき合いながら歌い合わせよう</p> <p>○範唱を聴き、学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲想を感じ取り、上声部を歌う。 <p>○歌詞の内容を理解して、響きのある声で歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作詞者からのメッセージや詩の内容を理解する。 ・響きのある、曲想を生かした表現を工夫しながら、各パートを繰り返し歌う。 <p>○声の響きや音楽の表現の工夫をして合唱をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱やバランス、曲の盛り上がるころなどを考える ・パートごとの動きや伴奏との重なり方を捉えて合唱する。 ・言葉を大切にしながら、気持ちをこめて合唱をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の種類別や合唱形態別のワークシートを準備するとよい。 ・リコーダーなど子どもたちにとって身近な楽器を例に挙げて声の種類を説明する。 【新出】ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、テノール、バリトン、バス、児童合唱、女声合唱、男声合唱、混声合唱 【共通事項】音色 音の重なり ・クイズ形式にして合唱の種類を考えさせるとよい。 ・歌詞の意味を説明し、様子が思い浮かべられるようにする。 【資料】滝廉太郎は1879（明治12）年東京生まれ。ドイツに留学したが病に倒れ、23歳の若さで亡くなった。日本最初の本格的な作曲家である。「荒城の月」「お正月」「はとぼっぼ」などの作品がある。 【評】音楽活動を楽しみながらいろいろな形態の合唱を聴き比べる活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じ曲を聴き比べることで、声の種類や構成によって感じが変わることに気付くようにさせる。 【評】声の重なる響きを聴き取り、それぞれの形態の合唱の響きや演奏のよさについて話し合う活動を通し「思考・判断・表現」を評価する。 ・この楽曲を聴いて思ったことやイメージしたことを発表させてから歌わせる。 ・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 【評】歌詞の表す情景や気持ちを想像して、どのように表現するか考えて歌う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する ・空や海に呼びかけるような発声を心掛けて歌わせる。 ・パートにあった歌声を意識させる。 【共通事項】音色 【評】範唱を聴いて曲の特徴を捉え、全員でイメージを共有して歌う活動を通して「技能」を評価する。 ・表現の工夫について話し合う時間を取るとともに、実際に歌いながら試させていく。 ・曲想に応じた盛り上がり方を工夫させ、上声部と下声部の強さのバランスに注意させる。 【共通事項】音楽の縦と横の関係 強弱

【評】曲の仕組みや特徴について意見を出し合ったり思いや意図をもったりして歌う活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】